



林顯三編  
河崎曾平閱

北海紀行

四

ル 4  
3661  
4



門 4  
3661  
4

林顯三編  
河崎曾平閱  
北海紀行卷之四

加賀  
林顯三編  
河崎曾平閱

後志國小樽港

六月二十七日細雨衣襟ヲ濕ス  
暑寒辰午前  
五時札幌ニテ檢五十八度東京正午七十三度

午前六時札幌ヲ發シ午後五時小樽開運町佐野

嘉三郎方著路程九里八町三十間

暑六月二十八日晴暑寒辰午時檢七十三度東

暑京正午七十四度

昭和二十四年  
三月十日  
録

勢ハ人ヲ制シ勢亦人ニ制セラル蓋シ勢ハ事物  
 集合ノカヨリ擴張シ或ハ制馭ノ羨惡ニ就テ變  
 化ス政府ノ勢ハ國憲ニ進退シ國憲將ニ蒼生ノ  
 薪炭ヲ裁配ス民ノ勢ハ人民輻湊ノ地ニ起リ動  
 産不動産ノ殖不殖ニ生シ或ハ民ノ勉不勉ニ關  
 ス此際ニ生スル処ノ條法ヲ民法トス民法國憲  
 ニ平行シ相對待シ親メテ親化カヲ起ス則チ其  
 國振起シ黎庶隨テ開明ニ進歩ス爰ニ北海ノ地  
 ハ元ト草昧不明ニシテ本邦ノ各地ト事ヲ同フ  
 セス天物生産盛ナリト云凡一二ノ利用ヲ取テ

其他普及セス近者開拓使廳ヲ置レシヨリ漸次  
 ニ從來ノ舊習ヲ除キ稍面目ヲ一新シ人民大ヒ  
 ニ集合ス就中小樽湊ノ如キハ勢昔日ニ類セス  
 日ニ月ニ相進ミテ今ヤ已ニ一都會ノ光景ヲ成  
 セリ

小樽市中戸數

五百七十戸内

官邸十戸  
 社寺四ヶ  
 社寺

人口

千八百七十四人内

一男  
 九百四  
 女百十

寄留人口

千百三十六人内

町數	十八町	雜	漁	商	工	農	僧侶	官員
	百七十九人	五百四十人	二百六十三人	八十六人	三十五人	五人	二十九人	二十九人
居松町	前德寺	坂上町	湊町	永井町	信嘉町	開運町	新地町	砂町
木場町	墨町	高砂町	勝芝	勝芝	勝芝	勝芝	勝芝	勝芝
男	男	男	男	男	男	男	男	男
女	女	女	女	女	女	女	女	女
男	男	男	男	男	男	男	男	男
女	女	女	女	女	女	女	女	女
男	男	男	男	男	男	男	男	男
女	女	女	女	女	女	女	女	女
男	男	男	男	男	男	男	男	男
女	女	女	女	女	女	女	女	女
男	男	男	男	男	男	男	男	男
女	女	女	女	女	女	女	女	女
男	男	男	男	男	男	男	男	男
女	女	女	女	女	女	女	女	女

小樽出張所々轄村數	八箇村	高島郡第一區	人口	五百十八人	男	二百五十四人	女	一百廿七人
同郡第二區	二箇村	高島郡第二區	人口	二百九十五人	男	百三十五人	女	百六十五人
小樽郡第二區	二箇村	熊朝里	人口	六百五十三人	男	三百卅一人	女	三百卅二人
同郡第三區	二箇村	張碓村	人口	七百二十四人	男	三百九十三人	女	三百三十三人

生産物 鮓大 鯉大 鮭少 鮑少 カスベ少 生海鼠少

昆布少

小樽郡中昨壬申年分漁産取獲高鮓鮭両品ニテ  
四萬六千石餘高島郡中二萬六千石餘ナリ  
小樽トハ元ヲタルナイト云テ土人ノ言語ナリ  
ヲタハ砂ニシテナイハ河ナリ砂河ト云義ナリ  
石狩郡ト小樽郡トノ境畧ニ小樽内川アリ元ト  
此処ヲ小樽内ト唱シト云フ

六月二十九日微雨折々霽 暑寒辰 午時檢六

六十八度

曠昔ヨリ氣候ニ觸レ微疴ニ係リ鬱悶ニ由テ門  
外車馬ノ諠シキヲモ忌ム

六月三十日午前微雨午后晴天 暑寒辰 午時  
檢七十度

微疴愈ス終日困卧ス

七月一日快晴 暑寒辰 午時檢七十五度  
外邪稍散シテ少シク快氣ナリ午后二時後ヨリ  
手官邊散歩本日湊内碇泊船百十六艘  
七月二日快晴 暑寒辰 午時檢七十八度

午後一時後ヨリ高島邊散歩ス當地出張所ヨリ  
 十丁計ニシテ「コハチ川」ト云アリ小樽高島ノ  
 郡境ナリ此海岸ニ奇岩ニツアリ土俗蛭子大黒  
 石ト号ク蛭子大黒ニ彷彿タリ此邊風景極テ佳  
 ナリ磯際干汐ノ処へ賤夫賤婦手籠ヲ携ヘ足ニ  
 テ帆立貝ホツキ貝ヲ探リテ拾ヒ取り或ハ手繰  
 網ヲシテ雜魚ヲ漁ルアリ大ヒニ賑ヘリ郡境ヨ  
 リ八丁計ニシテ字「ユマサ」ト云処ニ榜示杭  
 アリ是ヨリ左方「忍路」境「エナヲナ」ニヘ三十丁餘  
 右方ハ高島運上家迄十五丁ナリ尚九丁計ニシ

テ高島ヘノ本街ト海岸通リトノ道二條ニ別ル  
 本街ハ路極テ宜シ海岸通路アリト云凡太夕險  
 ニシテ風雨ノ時ハ至テ困難景色ハ羨ナリ「マヤ  
 ホン」トマ「杯」ノ漁番屋アリ  
 高島人家 二十五戸 土人家 四戸  
 運上家 函館商 住吉屋忠兵工  
 高島ヨリ十五六丁ニシテ祝津村アリ戸數五十  
 戸餘鮓立網二十投ノ漁場ナリ高島ハ鮓立網十  
 投ヲ有セリ此地ノ土人「コタン」ト云者ノ厄从  
 女子「ヤ」年二十五同シク國仙屋某娘分土人モ

シラ「イ」七娘タ「」年二十七同シク土人「サ」シ「弟」  
 シ「」タツ「」年二十五俱ニ怜利ナルヲ以テ昨年四  
 月東京開拓使教授へ入學命セラレ頗ル勉勵縫  
 針筆學習得シ以テ泥滓ヲ脱シテ錦繡ヲ著タリ  
 他日同行ノ宮崎此邊往來ノ時右國仙屋方ニ憇  
 シ「」タ「」等三人ノ品行ヲ尋シニ幸ニシテ土人「ゴ」  
 シ「」タル者傍ニ居俱ニ談シテ賞歎セリト宮崎  
 之レヲ聞テ頭ニ語ル頭賞歎ノ餘リ爰ニ記ス右  
 三人ハ蝦夷人種中ノ稀ナル者ニシテ天然禮讓  
 備リ克ク物ニ勉勵耐忍ノ質ヲ存ス嘗テ昨夏入

校セシ時ハ音信ノ書狀モ代筆ヲ頼テ報セシニ  
 當年ニ至リテハ全ク自筆ヲ以テ報シ習字ノ清  
 書ヲ送越セシニ大ヒニ善ナリト且ツ文中官費  
 生徒ノ有難キヲ喜悦シ日夜勉強致シ居昔來書每  
 告越ス由シ右三人ノ中ニモ「」タ「」ナル者ハ從來  
 縫針ノ業ニ慣レ安然ト暮ス日ナク或ハアツシ  
 ヲ以テ他ノ著服ヲ縫裁シ或ハ人ノ汚衣ヲ洗濯  
 シテ塵ノ賃錢ヲ得テ母ノ糊口ヲ扶ケ專ラ孝養  
 ナシ盡セリト然ルニ先年母病死ノ後常ニコレヲ  
 歎キテ追慕ノ念ニ堪ヘス哀哭ノ中ニモ縫針ノ

業不急孤トナツテ暮ス内計ラスモ昨夏撰舉ニ  
 依テ入學命セラレ終ニ國仙屋ノ養女トナリテ  
 東京へ趣ク路スカラ函館ニ泊シテ夢ニ凶母ヲ  
 見タリト愁歎ニ堪ヘス翌朝直チニ人ニ頼ミテ  
 夢ノ次第ヲ書送リ凶母ノ靈エ酒ヲ供ヘ呉レル  
 ヤウト申遣シトソ其至誠孝養ノ篤キ感ニ堪ヘ  
 ス頭當五月東京ニ於テ此蝦夷人ノ事ヲ聞シニ  
 縫績ハ餘程上達シテ今ハ戎衣「ジャツ」ノ類ヲ縫  
 裁シ且ツ禮讓進退ハ内地人ト云凡耻ル処アリ  
 嗚呼此土人他日卒業歸郷シテ同属ノ教師トモ

成ルニ至ラハ實ニ錦ヲ著テ郷ニ歸ルト云ヘシ  
 此日薄暮ニ歸宿ス暑寒辰午時檢七十六度  
 七月三日晴暑寒辰午時檢七十六度  
 辛未ノ年迄ハ當湊モ人家漸ク三百戸ニ過ス市  
 中ノ町名モ山ノ上信嘉元延嘉ト書ス金曇町元コシナリ  
 合テ三箇所ノ名稱アルノミ即今既ニ十八ノ町  
 名ヲ別ツ午後三時彙キニ同行セシ宮崎函館ヨ  
 リ到ル  
 七月四日曇天折々細雨暑寒辰午時檢七十  
 六度



異聞ナシ

七月五日晴 暑寒辰 午時檢 七十一度

本年小樽郡中漁業出產高ハ二萬九千石ニ過ス  
高島郡中ハ二萬石計客歲ニ比スレハ太ク不漁  
ナリ故ニ本年ハ人氣退屈シテ大ヒニ不景氣ナ  
リ

七月六日晴 暑寒辰 午時檢 七十度

復々氣候ニ觸レ煩悶

七月七日微雨 暑寒辰 午時檢 六十七度

終日困卧

七月八日午前晴微風午後二時右雨 暑寒辰  
午時檢 六十七度

微病漸ク快シ本日札幌神社國幣神社祭祀ニツキ當

処モ之ヲ祭リ市街各軒燈ヲ張り産土神山ノ上

住吉大明神へ戸長初市民各参拜セリ

七月九日微雨 暑寒辰 七十度

今曉柄太州へ發セント濱益へ通船ノ便ヲ乞ヒ

昨夜ヨリ其調度ヲナセシニ須臾ニ風變シ天鮮

七月十日微雨午后晴 暑寒辰 午時檢 七十一

度

風向キ昨日ニ等ク濱益通船ヲ斷ツ

明治四年石狩後志兩國中海岸通り戸數人員村

數並出產高見圖リ

後志國忍路郡 戸數 百六十六戸内 シヲヤ

十一戸 桃内 廿七戸 ツコタン 廿五

戸 ヲシヨロ 四戸 ラモシマナイ 廿九

戸 合五ヶ村

出產物一ヶ年見圖

鮭 一萬七千石餘 鮭 四百石 昆布 七

百石 干鱈 二十五石 煎海鼠 四石餘

土人家 二十七戸 人口 百三人

余市郡 戸數 百八十二戸内 ヲシコベ 七

戸 モイン 七戸 ハルトロ濱中ヌウチ合

セテ四十二戸 澤町 五十五戸 山臼シリ

ハ合テ四十一戸 クワチカラウシ 五戸

ヲタンコシ 四戸 レタリヒラ 六戸 シ

ユマトマイ 八戸 イウナイ 十三戸 千

ヤラツナイ 一戸 合テ百八十二戸 土人

家 八十三戸 人口 三百七十九人

出産高一ヶ年見圖

鮭 一萬八千石餘 鮭 八百石 干蛇 二  
 石一斗五升 煎海鼠 五石三斗  
 岩内郡 戸數 二百八十五戸内 岩内 二戸  
 稻穂崎 八十二戸 ノツカ 三十三戸  
 シキシマナイ 五十一戸 ヲムナイ 六十  
 七戸 ホリカツフ 十四戸 渋井 十三戸  
 カヤヌマ 十二戸 有別門 十一戸 合二  
 百八十五戸 土人家 十四戸 土人ノ人口  
 三十四人

出産高一ヶ年見圖

鮭 一萬三千石 干鱈 二百石 干蛇 二  
 十石 煎海鼠 四石計 昆布 六萬石計  
 鮭 三十石計  
 壽都郡 戸數 百五十八戸 別 = 出稼家 二  
 十七戸 タルキイシ 十九戸 六條 十七  
 戸 岩崎 十八戸 中哥<sup>ナカウタ</sup> 三十一戸 横付<sup>横付</sup> 矢追<sup>矢追</sup>  
 マホロト 三十九戸 マサトマリ 十七戸  
 湯川村農夫家 十七戸 合テ百五十七戸  
 土人家 五戸 土人ノ人口 十七人

出產高一ヶ年見圖

鯡 一萬二千石 干蛇 百二十五貫目 煎

海鼠 百貫目 鯡 百五十石

古宇郡 戸數 二百三戸内 出稼家 六十六

戸 トマリ 二十八戸 盃村 三十戸 キラ

シナイ、モイワ、 十八戸 カモエナイ 二十八戸

赤岩 大森 二十四戸 サレナイ 九戸 合テ二

百三戸 土人家 十一戸 土人ノ人口 四

十五人

出產高一ヶ年見圖

鯡 二萬五千石 干蛇 二十石餘 煎海鼠

五石餘 昆布 七百石 鱈 少々

古平郡 戸數 二百八十四戸 ラルマキ 二

十三戸 ヲタスツ 十五戸 メナシトマ

二十三戸 濱中 九十五戸 メタレ

四十戸 辨才トマリ 八十二戸 ヘルカル

ウス 六戸 合テ二百八十四戸 土人家

三十五戸 人口 百十四人

出產高一ヶ年見圖

鯡 ナラ 干蛇 同 煎海鼠 同 于鱈 同 鯡

同 昆布 同

美園郡 戸數 二百一戸内 出稼家 八十戸

キナウス ヒクニ ポロモイ アツト一

イ 辨才泊リ ホントマイ チヤツナイ

ヲタニコロ レフントマリ 各處戸數詳ナ

ラス 土人家 四戸 人口 十五人

出産高一ヶ年見圖

鯿 一萬七千石 昆布 百石 干蛇 十六

石計 煎海鼠 三百石 鱈詳ナ 鮭同

積丹郡 戸數 百二戸内 ミマム井 九戸

辨才泊 八戸 クロマツナイ 六戸 ク

タルウス 三戸 トマリ 五戸 イツカ

十戸 ヲタトマイ 三戸 ステキサ 五

戸 ポロナイア 二戸 ライキス 十三戸

テレキシ 二戸 レフンナイ 十三戸 ク

チヤンナイ 十四戸 ヲタスツ 九戸 土

人家 十二戸 人口 五十三人

出産高一ヶ年見圖

鯿 一萬四千石餘 昆布 三百石 干蛇

二十五石計 煎海鼠 十石餘 鱈詳ナ ラス

鮭ナシ

石狩國石狩郡 戸數 百十五戸 土人家 詳ナ

出産高一ヶ年見圖

鮭 一萬七千四百石餘 他産ナシ

原田郡 戸數 百二十戸 ヲ子トマイ 十二

戸 コタンベツ 二十戸 ヲシヨロコツ

五戸 コタンナイ 十五戸 アツタ 四十

戸 ヤソスケ 二十七戸 コキピル 二戸

土人家 七戸 人口 十八人

出産高一ヶ年見圖

鯿 一萬石 昆布 五百石 鮭 千石

右出産高ハ毎年收漁ノ比較ヲ以テス故ニ概算

ナリ

七月十一日晴 暑寒辰 午時後 七十度

午前八時官崎ト俱ニ濱益へ趣ント商船ニ乗込

ミ纜ヲ解キ同時小樽港ヲ發シタレ 凡風向キ變

シテ船更ニ艦マス黄昏ニ至ル迄湊内ヲ離レス

奈何トモスルヲナシ特リ艦板ニ登リテ湊上晚

暮ノ風色ヲ觀ルニ其勝景言フベカラス此日小

樽ノ市街稻荷宮ノ遷座トテ各軒燈ヲ掲ケ山下

一時ニ衆星ノ如輝タルヲ見ル就中海関所ノ燈  
臺ハ太白ノ蓬窓ヲ照スカト疑ハレ張碓朝里ノ  
漁家ノ夕烟ハ余市ノ嶽ヲ蔽ヒ一帶ノ白雲山ノ  
腰ヲ繞ル西ニ高島岬ノ奇崑突出シテ海角ヲナ  
シ宛モ襖ヲ作りシ如ク色内手官邊ニ扁舟ノ波  
ヒタルハ松島寒澤ノ風景ヲ畫クニ似タリ巽ニ  
方ツテ石狩ノ遙望遼遠ト雲涯ニ接ス舩ヲ枕ト  
シテ此絶景ヲ觀ル海天ヲ望メ八月皎々トシテ  
中空ニ輝ケリ  
小樽ヨリ濱益ヘハ陸行二十三里半舟行ナレハ

十四里ニ過ス今宵十時頃ヨリ風漸ク順ナルヲ  
以テ直チニ解纜シ針位良ニ向テ騶ス黎明ニ至  
ル頃迄十里餘ヲ過ルト云凡又風變シテ舩ノ動  
搖甚シ

七月十二日快天 暑寒辰 午時舩中檢 七十二  
度

旭輝キテ濱益ヲ望ムニ三四里ト云凡風向キ悪  
クシテ舩更ニ進マス漸クニシテ午后二時後濱  
益ノ旅亭へ著ス  
濱益領 總戸數 官邸 一戸 通行家 一戸

通行家トハ公私ノ旅客ヲ泊ナシムルカ  
 為ニ運上ヨリ立置ク旅籠家ナリ都テ小樽  
 以北ニハ通行家ト唱ル者往々有リ多分運  
 上家アルハ必スハ通行家ナシ東海岸ニテハ  
 運上家ヲ會所ト云西海岸ニテハ永住出稼  
 家共百六十戸計土人家四十七戸土  
 人ノ人口百九十人  
 生産物 鮭 千石 鮭 千石 昆布 千石 以上  
ハ昨年ノ收 鮫詳スナ 煎海鼠同  
 鮭相ハ當地ノ産ヲ以テ西海岸第一トス阪府等  
 ニテノ立相庭ハ各地ノ物ヨリハ價太夕騰貴ナ  
 リト此レ當處鮭ヲ身缺ニナサスレ其儘ヲ絞ル

カ故粕モ亦上品ナルニ由テナリ舊幕府ノ頃西  
 海岸中濱益増毛、崩留、苫前、天塩迄ハ庄内ノ支配  
 地ニシテ其頃當地へ移ス處ノ人員士農五百人  
 計ニシテ開農ヲナス此地土味善良ニシテ穀類  
 畑物能ク繁殖セリ年々開ク處ノ村落七ヶ村  
 阿彌陀村當處運上家ヨリ二十四ヒキ村現今二  
 野田生村七戸 清水村二三戸 吉岡村五六戸 檜ノ  
 木村七戸 以上七箇村ハ七ヶ年間ニ蔓延シ陣屋  
 營造レテ家族ヲ移住セシメ専ラ開墾ヲ為セシ  
 ニ己巳年奥羽ノ舉動ニヨツテ皆本國へ引揚ケ



厩ニ農夫十二三名居残り餘ハ土地ノ住民其開  
キタル地ヲ私有シ農事ヲナスト云凡勢ヒ昔日  
ニ類セス辛未ノ年ニハ一時芝増上寺ノ開拓地  
トナルト云凡是レ亦實事擧ラス終ニ奉還セリ  
ト云フ

濱益郡ト厚田領トノ疆畷ハゴキヒリヲ以テシ  
増毛郡トノ境ハヲフイヲ以スホロクンベツヲ  
フイヒシヤンヘツヲクリケシリナイ等皆濱益  
領タリ人家往々ニ有リ  
當処ノ海灣ヲ為ス海角ヲアイカプト云奇岩海

中へ突出ス之レ小樽港内ヨリ遠望スル処ノ山  
脈ナリ

當処ハ人民集合シテ漁業農業盛大ナル可キ地  
ナレ凡通達不便ノ患アリ上ハゴキヒリ岬ノ峻  
嶮アリ初冬ノ頃ニ至レハ極メテ快晴ノ日ニア  
ラザレバ来往シ難ク下ハヲフイ岬ノ險隘アツ  
テ雨風ノ節ハ峰ヨリ吹落シ雲靄常ニ起リテ行  
路是レカ為ニ妨ケラレ海上ノ便ハ小樽港内ヨ  
リノ風常ニ順ナラス港内ト海峡ヲ離ルニ隨  
テ風向差ヲ生シ船ノ来往甚タ稀ナリ此レニ由

テ更ニ海岸ニ沿フテ上下ノ新道ヲ開キ石狩増毛ヘノ便ヲ容易ク通スルニ至ラハ當地ノ開クル而已ナラス以北モ尚隨テ開ク可シ每年初冬ノ頃ニ及ンテハ屢旅人ノ通路ヲ斷ツト實ニ遺憾ノ事ナリ當地ヨリ増毛ヘ至ルノ通路ハ磯舟ヲ以テ達スルヲ便トス海程ハ五里餘ナレハ海岸常ニ波暴クシテ是亦脚ヲ停ルノ日多シ當地通行家背後ノ山間ニ川下河ト云河アリ鮭夥多ニ登ル河ニ沿フテ庄内元開墾所ヘノ通路アリ此水源ハ小金山ト云山ヨリ注ク此山容全

ク芙蓉峯ニ似タリ

七月十三日天陰強風午后霖雨激風アリ 暑

寒辰 午時檢 七十度

本日山行海行トモ増毛ヘノ通路ヲ斷ツ

七月十四日快晴風稍烈シ 暑寒辰 午后三時

ヲフイ峠ニテ檢 七十五度

此日快晴ト云厄良ノ風烈シクシテ舟行ハ風ニ溯ルカ如ク午前十時ニ垂ントスレハ風向キ尚悪シク直チニ道ヲ山間ニ取テ發程ス濱益ヨリ一里ニシテ群別ト云フ地アリ 出稼家ニ群別ヨ

リ半里餘ニシテ纒群別ト云アリ出稼家十是ヨ  
 リフヲイ峠ニ係ル此処ヨリ峠迄三里道路峻險  
 ニシテ荆棘道ヲ遮リ蛛糸人面ヲ蔽ヒ雲靄足下  
 ヨリ起リテ忽チ前後ノ山容ヲ失フハ甚々厭苦  
 ス可シト雖凡衆鳥嘯リ奇草薰リ花實各自奇ヲ  
 呈スルハ亦佳觀ト云ベシ此山徑常ニ行客ヲ斲  
 ツハ舟行ノ便利アルニ由ルナリ七里ノ山路人  
 跡ヲ斲チ幽雅最モ愛ス可シ纒群別ヨリ山上一  
 里ニシテ字鞭名山ト云是ヨリ増毛高札場へ六  
 里二十六丁ノ榜示アリ尚登ルト一里ニシテ字

登古丹ト云フ増毛高札場へ五里二十六丁ノ榜  
 示アリ此邊五葉松丈々七八尺計ナル者徃々繁  
 殖シ昔ヲ反セハ白雲ハ山又山ヲ覆ヒ濱益ヲフ  
 イ岬ノ海峡ハ朦朧トシテ雲中ニアリ眼下満面  
 渺々トシテ物色ヲ分タス孤身雲外ニ在テ恰モ  
 一箇ノ別世界ヲ望ムニ似タリ  
 登リ立チ今ハト見レハ白雲ノアトヨリ覆フ  
 フフイ嶽ヤマ  
 登古丹ヨリ厓ニ登ルノ前嶺ヲオテント云フ一  
 里計ニシテ濱益ト増毛ノ疆畧ナリ是ヨリ増毛

高札場へ四里二十五丁ノ榜示アリ尚厩ニシテ  
 絶嶺ニ至ル奇峯怪巒ノ間白雪班然タルハ恰モ  
 虎豹ノ谷中ニ眠ルカ如シ路傍ノ白雪ヲ採リテ  
 渴ヲ鑿ス亦美味ナリ此時時辰殆ント五時前途  
 尚四里餘ノ程アリ途ヲ急クト云厩道案内ノ厩  
 夫前途ノ險ニ疲勞シテ甚タ困却セリ此ヨリ以  
 北ハ客年既ニ道路ノ修繕アリ土工六十人ニシ  
 テ六十日間ヲ費セリ故ニ増毛領ヨリハ路大ヒ  
 ニ宜シク且ツ降り坂ナリ領堺ヨリ一里二十五  
 丁ニシテ字「タツ」ニタエウスト云フ此邊蚊ノ衆

多ナル嗷々ト群来シ刺螫ニ困疲セリ尚一里計  
 ヲ過キ斜陽全ク没シテ十時ニ垂ントスル頃漸  
 クニシテ麓ナルホシナイト云フ地ニ達ス速ニ  
 飯ヲ喫シ餓ヲ鑿ス爰ヨリ増毛ニ至ル此程一里  
 ナリ此間人家連接セスト云厩ノ距離ニシテ  
 連絡セリ増毛入口ニ併流セル三條ノ河アリ角  
 材ヲ構シテ長サ九十八間ノ長橋ヲ架セリ號ケ  
 テ「ウカン」ヘツト云フ西地第一ノ長橋ナリ折  
 柄舊曆二十日ノ月ハ皎々ト増毛ノ山際ニ輝キ  
 河風互渡リテ秋景凄然夜十二時後増毛旅宿小

野寺富三郎方ニ投宿

七月十五日終日雨微風

暑寒辰 午時檢六十

四度

增毛領總戸數 百五十戸餘 土人家 十戸

生産 鮭 本年収漁高五万石計近 鮭 三千石餘 鱒

上ニ同 昆布 二千石餘 カスヘ 詳ナラス 蛇 本年

ヲナス者七十人近年ニ 煎海鼠 上ニ同シク本

比スレハ大々増加セリ 増毛領中人家アルノ地ハ

ベスカリ 三十戸計 シユウカンヘツ マシ

ケ ナカウタ ポシトマリ シヤクマ ア

フン シユ、ナイ アフンシラリ 増毛留萌  
領坂ナリ  
ホンナイヨリアフンシラリ 近戸數百五十戸餘  
ナリ

當地ハ大灣ニシテ船ヲ泊スル良所ナリ且ツ漁  
業ノ盛ナルハ小樽港ニ亞ク出產高ハ毎年大  
凡千石以上ノ船五十艘ニ輸出シテ足レリト聞  
拓使出張所アリ運上家ハ松前ノ舊商伊達林右  
衛門持場ナリ此本陣ハ西海岸第一ノ大家ナリ  
ト云フ  
當灣本日ノ碇泊船數三四百石ヨリ千五六百石

迄三十六艘總テ此邊ハ地皆細砂ニシテ石礫稀  
ナリ蔬菜能ク生育ス此頃逐次ニ地ヲ拓キ農事  
ヲ開廣セリ

旅亭主人小野寺ナル者ノ咄ニ四ヶ年前初テ柄  
太へ渡海セシ時馬百三十六匹北海道産種牛三十六  
匹ヲ牽ヒテ其半ヲ鬻キ大ヒニ利澤ヲ得タリト  
此日午前暴雨午后二時雨稍止ムヲ俟テ留崩ニ  
至ル程四里道極メテ宜シ夕五時三十分留崩へ  
著ス

留崩一郡内 戸數 支廳 仮營 運上家 紀伊須原村舊

商榘原茂兵衛持場 人家 八十戸 出稼家共 土人家

二十五戸

生産物 鯡 二万石餘 鮭 二千石餘 鱒 三百石

計 昆布 五百石 蛇 少々 煎海鼠 少々

本日碇泊ノ船數千石内外ノ者六艘西南ノ間ニ  
方ツテ當海岸ノ灣形ヲナス為ニ突出シタル海  
角ヲ「セム」岬ト云フ

七月十六日微雨 暑寒辰 午后四時四十分鬼  
鹿ニテ檢六十四度

午前十時留崩ヲ發シテ苦前ニ至ル程十一里二

丁五十間

留崩ヨリ一里ニシテサントマリト云フ処アリ  
永住出稼家凡三十四五戸サントマリヨリ二里  
計ニシテヲベラシベト云フ河アリ舟渡シナリ  
霽雨ノ節ハ渡シヲ断ツ三里計ニシテヲ子トマ  
リト云フ処ニ番家アリ昼休處ナリ午后四時四  
十分鬼鹿ゴウカへ著ス留崩ヨリ程六里  
鬼鹿戸數 テントカリニヲトマリ凡係テ五十  
一戸 運上家持原 浄土宗寺 一字  
留崩ヨリ此邊ニ至ル地味善良ニシテ路傍ハ多

ク田畝ヲ耕シ男女野業ニ奔走セリ瓜類豆類馬  
鈴薯ヲ専ラ培養セリ碇泊船數鬼鹿海岸ニ在ル  
モノ千石以下三艘此地ヨリヤンキンリテウレ  
ノ両島迢カニ眺望スベシヤンキンリハ海上二  
十里計テウレハ三十一里ナリ鬼鹿ヨリ二里計  
ニシテ知也チナ俊内ト云フ処人家絶ヘス其端レニ  
川アリ此処留崩昔前領堺ナリ知也俊内利機チキ美  
里ト引續キテ人家海岸ニ沿フテ絶ヘスアリエ  
チビリナイ人家二十戸計アリ昔前ヨリ一里七  
八丁手前ニ字ウミツラト云フ処アリ廣渺ノ地

ニシテ元ハ運上家用馬ノ秣ヲ採リシ地ナリ此  
邊海縁ニ小高キ丘壟アリテ夕風ヲ掩遮スルカ  
故ニ農耕ヲナスニ適宜ノ地ナリ昔前へ一里ニ  
シテ「コタンベツ」ト云フ河アリ幅四十間計舟渡  
シナリ此河上ニ庄内元陣屋アリ夜十一時三十  
分昔前へ著ス

七月十七日晴 暑寒辰 午前十一時三十分ハ  
ホロニテ檢 七十一度

昔前 戸數 二十戸 土人家 十二戸  
メソトマリ 六戸 ソウウ 業運上家 持場原  
ハソウウ 業運上家 持場原

生産物 鮭 一當年収漁高 鱈 五十石 鱒 五十石  
鮭 五百石 昆布 四百石 煎海鼠 五十石計員數  
リカスベ 少々

右ノ内昆布ハ西海岸第一ノ上品トス世ニ天塩  
昆布ト稱スルモノハ皆昔前邊ニテ取ルモノナ  
リ此処ヨリ手賣矢機尻ノ両島へノ海上最モ近  
シ手賣ハ戌向ニシテ七里此島周圍二里二十三  
丁四十九間栖原持場ナリ漁業番家一ヶ所アリ  
人家ハ春秋ノ出稼ノミナリ生産物ハ鮭、蛇、鱈、煎  
海鼠、カスヘナリ右ノ内蛇ヲ以テ第一トス矢機



尻ハ亥向ニシテ苦前ヨリ海上六里此島周圍二  
里二十六丁栖原運上家アリ出産物ハ手賣ニ同  
シ兩島ノ相距ル厓ニ一里土人家九戸人口三十  
人計

午前六時苦前ヲ發シテ風連別ニ至ル程十六里  
二丁

苦前續キトマリアサレ永住三戸アリ十五丁計  
ニシテアチヤナイト云フ木挽小家一戸二十丁  
計ニシテウレ、ルシト云フ永住家一戸シユル  
クマナイ番家一戸二里ニシテハボロト云フ河

アリ幅三十間計舟渡シナリ土人家一戸苦前ヨ  
リ此邊迄ハ上品ノ昆布ヲ産スル所ナリ荒磯波  
ノウ子ミ、黒ミ渡リテ海上一面堆ク或ハ波ニ  
テ磯際へ打上ケタルモ夥多ナリ亦扁舟ヲ泛メ  
テ木鎌ノ柄ノ一丈計ナルヲ以テ昆布ヲ採ル舟  
數十艘賤夫賤婦ノ塩垂レ衣ヲ著テ終日幾駄ノ  
昆布ヲ採ル其辛苦言語ニ絶ヘタリ  
蝦夷ノ海ウキメ採ル藻ノ業ナレヤシホ垂レ  
衣干ス隙ソナキ  
三里半ニシテ海岸ニ難所アリ流木ノ大幹横リ

テ道ヲ遮リ或ハ崑石聳ヘテ海面へ突出シ之レ  
 ニ激波ノ打寄ル其間ヲ走り通ルナリ波荒キ時  
 ハ山路ヲ通行スレ厩ノ小徑ニシテ草葉生繁  
 リ行路分チ難キ程ナリ行客大槩ハ海岸ヲ通行  
 ス此難処ヲニカラシナイト云フ往昔此処ヲ土  
 人ノ通りシ時卒然波荒レテ往モ歸モ進退極マ  
 リ其邊ニ在合フタル木ヲ拾フテ梯子ヲ作り之  
 ヲ切崖へ渡シ攀リテ一身ヲ保チタリ由テニカ  
 ラシナイト云フニカラシト云フハ梯子ヲ云フ  
 ナイトハ澤ノ義ナリ此邊汐ノ引キタル頃ハ崖

上ヨリノ滴水澤ノヤウナルヲ以テナリ此処ヨ  
 リ手賣矢機尻ノ二ツノ島突然トシテ鯨鯢ノ波  
 間ニ浮フカ如ク一朶ノ白雲迢カニ島隙ニ懸キ  
 タルハ恰モ汐水ヲ呼吸スルニ似タリ苦前ヨリ  
 三里二十二丁ニシテチクベツト云フ処ニ休憩  
 スル為メノ明キ小家アリ此処ニ幅二十間計ノ  
 河アリ満水ノ節ハ舟ニテ渡ス是カ為メニ土人  
 家一戸アリ風連別ヨリ海ニ沿フテ一里手前ニ  
 ゲンコマナイト字スル処アリ此処ヨリ山逕ヲ  
 行ケハ一里半餘是レ亦蒿草繁生シテ困難ナリ

然レ此海岸モ一ツノ難路ニシテ波穩ナラス  
 シテハ往來シカタシ昔前ヨリ天塩ニ至ル第二  
 ノ險ナリ午后六時風連別ニ著ス此地ハ通行家  
 一戸アルノミ「ブウレベツ」ト唱フルモノハ土人  
 ノ語ニシテ「ブウレ」ハ赤イト云フ義「ベツ」ハ河ト  
 云フ義ナリ此処ニ河アリ幅十五六間河水常ニ  
 赭色ヲナス故ニ「ブウレ」ト云フ赤キ河ト云フ義  
 ナリ著后此河ニ釣ヲ垂レシニ須臾ニ鰓十尾許  
 ヲ得タリ此地ハ生産品ナク唯鮭鱈ヲ漁スルノ  
 ミ

七月十八日白日朦朧 暑寒辰 午後五時天塩  
 ニテ檢 六十七度

午前六時風連別ヲ發シテ天塩ニ至ル程八里一  
 丁  
 風連別ヨリ十丁計ニシテ「サルケシナイ」ト字ス  
 ルアリ絶壁ノ際へ波打附ケテ太タ困難ノ地ナ  
 リ此日特ニ波荒ク殆ンド難儀ニ逢ヘリ其險ケ  
 「ン」コ「マ」ナイノ右ニ出ツ一里ニシテ字「ト」コ「マ」ナ  
 イト云フ二里ニシテ字「ヲ」タ「コ」シ「ベツ」ト云フ此  
 處昔前天塩ノ郡境ナリ三里ニシテ字「ト」マ「シ」ウ

シナイト云フ總テ此邊荒磯ニシテ波濤常ニ高シ此日激波ノ渚ヲ搏ツ其高一丈餘ナリ此邊開拓農耕ヲナスヘキ所ナシ偶平原アルモ地味善ナラス四里一丁計ニシテウヱンベツト云フ河アリ幅二十間計満水ノ節ハ舟渡シナリ河ニ沿フテ五丁計上ミニ渡シ場アリ土人家二戸休息明キ小家アリ此河鱒魚アリ五里ニシテ字ヲ「ルマウツ」ト云フ六里ニシテ字ヲ「ギビト」トナ「イト」云フ此邊ヨリ少シ海岸ヲ距テ叢莽中ニ小徑アリ岐路多ク極メテ紛ハシ是レ天塩ヘ越ル

ノ捷徑ナリ路傍ニ休息明キ小家アリ休息小家ニハ住居人ナシ唯雨露ヲ陵ク迄ナリ七里ニシテ字ヲ「ホロ子」トイト云フ此邊山涯ヲ距ル、太タ遠ク浩渺トシテ茅茨生繁リ春原ニ麥麻ヲ植タル如ク其中ニ杜若ノ花盛ニメ満目物色ヲ同ス八里ノ行程人跡ヲ絶チ名ニシオフ豊葦原ノ草昧上古ノ世ヲ開ク想ヒヲナセリ  
千早フル神代ナカラノ蝦夷カ島トヨアシ原ノ名ニモオヒツ、  
午後五時天塩ヘ著ス

北江紀行 卷之四

天塩 官邸 一戸 運上家持場原 辨天社 一  
 ク社 出稼家 二戸 土人家 十戸  
 生産物 鮭 三千石 鱒 少々 煎海鼠 少々 熊  
 ト、松

天塩河ハ蝦夷第二ノ巨流ニシテ石狩河ニ次ク  
 水源ハ石狩ノ岳ヨリ發シテ天塩ノ海岸ニ注ク  
 水程百五十里ト云フ俚俗石狩河ヲ父河ト稱シ  
 天塩河ヲ母河ト唱フ河幅大約百五十間源遠キ  
 故穩流ナリ常ニ滿漲シテ諸魚ヲ化育ス然ルニ  
 流末其海面ヘ注ク処ハ通常ナラス横斷シテ之

ヲ海面ヘ突流スルカ為ニ流木或ハ砂石ヲ堆層  
 シテ水勢ヲ支ユ汐ノ滿ル頃ハ必ス歴溯シテ逆  
 流スルカ如シ斯ノ如クシテ從來鮭漁ヲ妨ケタ  
 リシニ去ル午ノ年元水戸藩支配ノ頃水戸口ヲ  
 穿チ河ヲ浚ヘ障礙物ヲ掃淨セシヨリ鮭漁ヲ為  
 ストヲ得其后毎年鮭ノ登ル頃ハ茨木縣下請負  
 人來リテ漁ヲ為ス此河横斷シテ海面ヘ注クカ  
 為ニ其突流スル水勢ノ餘リ水戸口ヲ過テ尚三  
 丁餘ノ湖水ヲナセリ土人稱シテサルフツト云  
 フ此湖ニ蜆鰾ノ類多ク生育ス

北江紀行 卷之四

七月十九日曇天少ク寒シ 暑寒辰 午后三時  
檢六十九度

此日天塩河渡舟ヲ斷ツニ由テ滞留ス當処ハ都  
テ地味善良ナラス菜蔬ヲ培育スル尚札幌邊ニ  
及ハサルヲ遠シ此邊土人冬分ノ食料ニ充ルニ  
俗ニ乳母百合ト云フ草ノ根ヲ採リ水干シテ葛  
粉ノ如ク製シ大サハ八寸鏡程ノ形ニナシテ之ヲ  
爐上ニ乾シ貯ヘ置クナリ

七月二十日曇天終日日光ヲ見ス 暑寒辰 午  
后二時雅咲内ニテ檢七十四度

午前七時天塩ヲ發シテ跋海ニ至ル程十二里十  
八町四十間

當處ヲ發シ天塩河ヲ越ヘ二十四五丁ニシテコ  
エトイニ至ル此処ニ烽火臺烽火臺ト云フハ薪

地ノ能ク四周ヲ見渡ス処ニ小屋ノ如ク積ミ  
置キ其地ニ非常ノ事故アル時ハ是ヲ燃シテ次  
ノ運上家ヘ合圖ノ事報ヲナシ接助ヲ乞フ為メ  
ナリ從前松前氏所轄ノ時ヨリ起リテ今尚往  
マニアリ渡シ守ノ土人家一戸休息明キ小家  
一戸アリコエトイト云フハ蝦語ニシテ波越ル  
ト云フ義ナリ往昔此邊リハ常ニ波ノ越シタル  
ヲ以テ名トス今此唱ノモノ往々ニアリ天塩ヨ

北江紀行 卷之四 二十九

リ一里ニシテ字「サシ」ルイサシト云フ是ヨリ海  
 岸ヲ距ル、一丁餘ニシテ根笹<sup>ハシ</sup>藜<sup>ハシ</sup>ノ中ニ小  
 徑アリ是レ跋<sup>ハシ</sup>海<sup>ハシ</sup>ヘノ本道ナリ海岸通りニモ路  
 アリ二里ニシテ字「タアヒ」ト云フ三里ニシ  
 テ字「ホロノ」ト云フ三里半ニシテ「トシ」ルイ  
 ト云フ此処ニ休息明キ小家アリ四里ニシテ字  
 「バンケル」ト云フ五里ニシテ字「シヤロ」ト云フ  
 六里ニシテ字「ワツカチシボ」ト云フ十里計ニシ  
 テ雅<sup>ワカ</sup>咲<sup>サキ</sup>内<sup>ノ</sup>ニ達ス天塩ヨリ六里九丁四十間ナリ  
 雅咲内 通行家 一戸<sup>栖原</sup>持場 生産一切ナシ

總テ昔前ヨリ一里毎ノ地名人家アルニアラス  
 唯人家アルモノハ戸數ヲ記シナキモノハ字ヲ  
 記ス天塩ヨリ七里ニシテ字「フイ」ニシヤト云  
 フ此日雨降ラスシテ終日朦朧ト日光ヲ見ス四  
 周雲霧ノ蔽フ如ク溟々トシテ物色ヲ分タス殊  
 更海風烈シクシテ一片ノ雲靄須臾モ空中ニ漂  
 留スルナク内地ニハ曾テ見馴レサル一種ノ氣  
 色ナリ案スルニ胡<sup>コ</sup>砂<sup>サ</sup>ト云フハ此ノ如キヲ指  
 テ云フナラン古説ニ蝦夷人雪ナトヲ口ニ含ミ  
 テ空ニ向ツテ吹キアケ其邊ノ月影ヲ曇ラセテ

魚ヲ漁ルナリト去レハ為家卿ノ歌ニ「胡沙吹カ  
 ハ曇リモソスル陸奥ノエソニハ見セシ秋ノ夜  
 ノ月又紹巴カ句ニ「春ノ夜ヤ蝦夷カ胡沙吹ク空  
 ノ月ナド諸説アレモ思フニ皆臆説ナラン 顯他  
 日札幌住ノ古老橘某ナル者ニ此説ヲ聞シニ胡  
 沙ハエビスノスナト書ナリ往昔ヨリ奥羽以北  
 ハ皆夷ト唱フ蝦夷地ハ北極ニ近ク常ニ陰々ト  
 シテ風吹ク時ハ沙ノ立カ如クニ因テ胡ノ沙ト  
 書ナリト云ヘリ此橘某ハ二十年前ヨリ東海岸  
 〔ツナイ〕邊ニ住シ能ク蝦夷ノ情實ニ通シ傍ラ

文才モアル人物又古説ニ胡沙ハ蝦夷人ノ吹ク  
 籟ニシテ木ノ皮ヲ卷キ吹クヲ云ト此説亦ナキ  
 ニアラス 顯石狩山中ヲ通行セシ時土人樺皮ヲ  
 卷キテ喇叭ノ形トシ之ヲ吹クヲ見タリ之レハ  
 人ヲ呼ノ為メ一吹クト云ヘリ然レモ孰レニ聞  
 テモ之ヲ胡沙ト云フ聞ス天塩ヨリ八里ニシテ  
 字「エキコマナイ」ト云フ天塩北見兩國ノ境ナリ  
 是ヨリ宋也郡ト云フ九里ニシテ字「子トマ」ト  
 云フ此邊ヨリ利尻禮文尻兩島へ海上太々近  
 シ利尻へハ七里禮文尻へハ十里ナリ此日朦朧



トシテ此等ノ島ヲ望見セス十里ニシテ字「ユル  
ク」ト云フ烽火臺アリ十一里ニシテ字「ユウツ」ト  
云フ十二里ニシテ字「メ」、ナイト云フ午後五時  
三十分跋海へ著ス

跋海 通行家 土人出稼家共 八戸 辨天社  
一ヶ社

生産物 鮓 鮓 鮓 煎海鼠

當處ノ入口ニ屹立シタル一小山アリ其頂キニ  
奇巖突出ス其形路ノ臺ニ似タリ由テ其名ヲ「ハ  
ツカイ」ト云フ「ハツカイ」ハ路ノ臺ト云フ義ナリ

又海中へ突出シタル海角ニ辨天ノ社アリ風色  
極メテ佳ナリ

七月二十一日曇天海風烈シ 暑寒辰 午前十  
一時コエトイニテ檢 七十四度

午前五時三十分跋海ヲ發シテ宋也ニ至ル程八  
里二十九丁

跋海ヨリ一里ニシテ字「ク」ト云フ二里  
ニシテ字「チ」ト云フ是ヨリ十丁計ニシ  
テ山間ヲ越ル路アリルイラント云フ休息明キ  
小家アリ此処ヨリルイラント山ニ登ルナリ尚三

十三丁ニシテグシヤンルニ至ル海岸通りノツ  
 シヤブ岬へ廻レハグシヤンル迄五里其間ニル  
 イサシトマリトヘンナイヤマワツカナイ等ノ  
 漁場アリハツシヤハ海上へ突出シテ眺望美  
 景ナリト云フグシヤンルヨリ九丁ニシテウエ  
 シナイト云フ処ニ運上家ノ厩一軒土人家一戸  
 アリウエシナイヨリ一里ニシテユイトイト云  
 フ処ニ河アリ舟渡シニシテ幅二十五間アリ水  
 源ハシウシトウト云フ沼ヨリ發ス河ノ向ヒニ  
 通行家伊達持場一戸アリ土人家四戸鮭四百石計躰

少々ヲ漁ル是ヨリ宋也會所迄四里一丁ナリコ  
 エトイヨリ一里ニシテ字メクト云フ二里ニ  
 シテ字シラリウクト云フ三里ニシテ字ヲイク  
 シマナイト云フ此処トシラリウクトノ間ニマ  
 シボ、イト云フ河アリ幅十五六間此処ニ休息  
 明キ小家土人家一戸アリヲヒクシマナイヨリ  
 十三丁ニシテヤコタント云フ土人家三戸宋也  
 出張所ノ火藥庫アリ是ヨリ宋也へ二十四丁午  
 后二時二十分宋也へ著ス  
 宋也 戸數 出張所 病院 役邸 通行家伊達

持場 濱會所 辨天社一以上各箇 總藏數 二十

一庫 土人家 三十戸 浄土宗寺 一字

柄太渡船 一艘石百五

宋也一郡生産物高 鮓 三千石 鮓 千石 鱒

鱈 煎海鼠 其外雜品種々

當地ハ北海東西ノ咽喉ニシテ從來ヨリ北門ノ

鎖鑰ト稱シ滿州ノ地ヘ達スル海上二百里ニ滿

タス當所ヨリ十八里ノ海峡ヲ涉リ柄太ノ地ニ

達シ魯西亞ノ領地ト稍氣脈ヲ通ス嘗テ舊幕府

ノ頃ハ海岸ニ砲臺ヲ築キリヤコタンニ火藥庫

ヲ置キ兵器ヲ備ヘテ防禦ノ結構アリシニ近頃

柄太楠溪ノ地ヘ支廳ヲ置レシヨリ右砲臺モ今

ハ官邸トナリ彼地來往ノ要路トナリ疆内山多

クシテ原野少ク土味善ナリト云凡農耕ヲナス

ノ地廣カラス海岸ハ遠淺多クシテ澗口ヘ船ノ

通スルヲ三丁ニ過ス故ニ大艦ハ始終碇泊スル

ヲ難シ

七月二十二日午前陰晴午后晴天 暑寒辰 午

時檢 七十八度

當春迄當處ニ支廳ヲ置レシ際ハ土地モ賑ヒタ

リシニ留萌へ移廳ニナリシヨリ太夕寂寥タリ  
ト云フ  
運上家差配人ハ元松前産ニシテ數十年此地ニ  
住セリ此者曰ク白主ノ渡海ハ厩ニ十八里ナリ  
ト云凡日本海ト東洋トノ海峡ニシテ常ニ汐ノ  
往来烈シク且ツ風波穩ナラスシテ動モスレハ  
他方へ漂流スルヲ多シ昨年ノ冬モ楠溪詰ノ官  
員船頭土人凡都合九名ニテ渡海セシニ白主ヨ  
リ厩ニシテ風波ノ變ヲ生シ船沉没シテ乗組皆  
殞命セシト又柄太ノ地へ渉ル人ノ寡キヲ春来

ヨリ僅カ漸ク三度ヒノミ白主ヨリハ再度来レ  
ルナリ係シ春来蒸氣艦ノ往来セシヲアレハ是  
ニテ渡海セシ人モアル可シ大凡毎年十月頃ヨ  
リ翌年三四月頃迄ハ渡船ヲ斷ツ彼地へ往クモ  
来ルモ山<sup>ナ</sup>東風<sup>ナ</sup>ト云フ風ニテ渡船ス此風ニ乗  
シテ船ヲ<sup>ツ</sup>岬ノ沖へ登セ夫ヨリ汐ニ沿  
フテ流レ渡リスト云フ

七月二十三日暴風雨 暑寒辰 午時檢 六十九  
度

昨冬嚴凍ノ折ハ當処暑寒辰六度ニ至レリ極暑

ハ八十八度ニ昇リタリト云フ當地近邊ノ山々  
ハ皆禿山ニシテ薪炭ニ用ヲ欠ク故ニ「ウエンナ  
イノ山間ニ炭竈ヲ設ケテ薪ト共ニ當地ヘ運送  
スト云フ

七月二十四日午前陰晴午後晴天 暑寒辰 午  
時檢 七十八度

此日午後快晴ニ至ルト云レ風向頻ニ良ニシテ  
自主ヘ航海スル能ハス  
當所生産ノ雜品諸種アリ海産ハ大凡 鯨 鯨 石  
明魚 蛸 蟹 鮎 海膽 海老 蜆 丁カ

イ魚等

河魚ハ ヤマシロ 鰻 鰻 鰻 出  
禽獸ハ 熊 兔 海馬 水豹 鷲 海鳧 白  
鴨 小鳥種々

菜菓ノ類ハ 午房 欵冬 芥菜 芹 コシヤ  
ク 百合草 胡葱 獨活 蕨 薇 小筍  
野葡萄 胡桃 椎茸 舞茸等皆天然生ノ物  
ナリ

七月二十五日快晴 暑寒辰 午後二時檢 七十  
三度

風向昨日ニ同シ此日北海紀行ノ上卷ヲ稿ス

七月二十六日晴天暴風 暑寒辰 午后二時檢

七十三度

風向尚前ノ如シ宋也ヨリ東方宋也郡ト枝幸郡ノ領境ワツカサハカレ迄十六里南境エキコマナシ迄十二里二十九丁ナリ

七月二十七日快晴烈風 暑寒辰 午后二時檢

六十七度

此日午前十時頃ヨリ江刺海道口へ遊獵ニ出ツト雖モ獲物ナシ

七月二十八日快晴 暑寒辰 午后二時檢 六十

九度

此日快晴ト雖モ風良ヨリ吹キ出帆スルヲカタシ

七月二十九日微雨 暑寒辰 午后二時檢 六十

一度

今曉ヨリ風向宜ヲ得テ黎明直チニ艤ヒレ午前六時後乗船當灣ヲ發シ船行須臾ニシテ沖へ一里餘出ルヤ風亦俄變シ逆風搖ヲ轉リ海上暗々トシテ咫尺ヲ分タス因テ宋也へ復帆ス

七月三十日快晴 暑寒辰 午后二時檢七十五度

當灣坤下リニ當ツテ利尻ノ高山海上へ巍然ト  
シテ突出セリ其山形富嶽ニ彷彿タリ俚俗北見  
富士ト云フ周圍十五里十六丁餘島中伊達持場  
運上家アリ鯨鮭等ノ産ヲ出ス土人住家十戸計  
禮文尻ハ高山ナシ周圍十六里餘伊達漁番家ア  
リ漁業ハ利尻ニ劣レリ土人住家二三戸アリト  
云フ

北海紀行卷之四終

長

六

十

